

令和6年度に実施する 防災気象情報の改善について

1. 線状降水帯による大雨について半日程度前から「府県単位」での呼びかけの開始
2. 気象情報における量的予報の表現の変更

大阪管区気象台 気象防災部 予報課

令和6年から開始する府県単位での呼びかけ（地方／府県気象情報）

これまで



令和6年5月28日以降

対象地域を
絞り込んで発表



地方気象情報

大雨に関する**近畿地方**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 大阪管区气象台発表

<見出し>

**近畿地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

<本文>

…（中略）…

大雨に関する**近畿地方**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 大阪管区气象台発表

<見出し>

**大阪府と奈良県と和歌山県では、〇日夜には、線状降水帯が発
生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

<本文>

…（中略）…

対象とならない府県では、府県
気象情報での呼びかけをしない。

府県気象情報

大雨に関する**大阪府**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 大阪管区气象台発表

<見出し>

**近畿地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

<本文>

…（中略）…

大雨に関する**大阪府**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 大阪管区气象台発表

<見出し>

**大阪府では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

<本文>

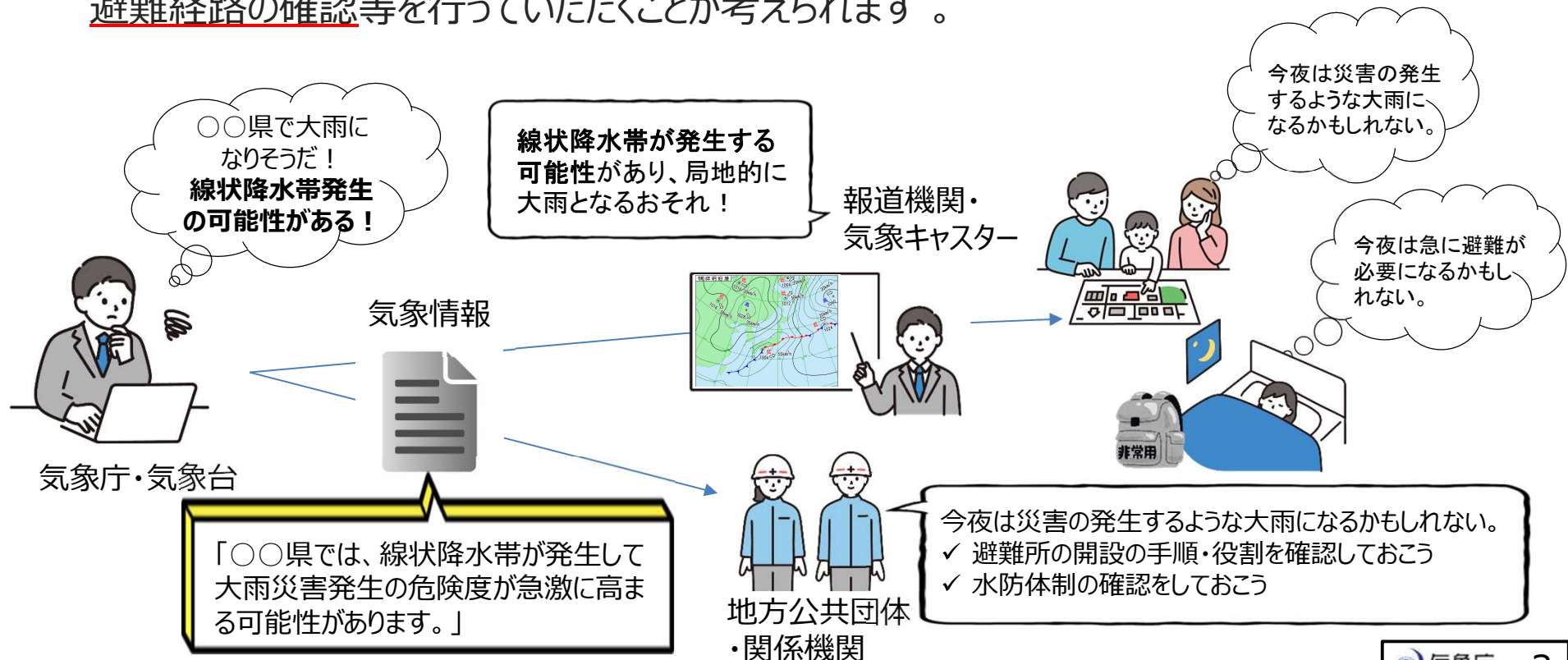
…（中略）…

※発表する情報の電文フォーマットは変わりません。

呼びかけが行われた時の対応例

府県単位で呼びかけを行いますが、
これまでと対応を変える必要はありません。

- 線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めていただくことを目的としています。この呼びかけだけで避難を促すわけではなく、ほかの大雨に関する情報と合わせてご活用ください。
- **市町村**の防災担当の皆さまには、避難所開設の手順や水防体制の確認等、災害に備えていただくことが考えられます。
- **住民**の方々には、大雨災害に対する危機感を早めにもっていただき、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられます。



線状降水帯に関する各種情報（おさらい）

線状降水帯とは



顕著な大雨に関する気象情報とは



線状降水帯による大雨の
半日程度前からの呼びかけ
とは



国土交通省
気象庁
Japan Meteorological Agency

ENGLISH Other Languages 文字サ
気象庁 防災情報 気象庁 気象庁 気象庁 YouTube Google 提供

ホーム 防災情報 各種データ・資料 地域の情報 知識・解説

ホーム > 知識・解説 > 気象情報 > 線状降水帯に関する各種情報

線状降水帯に関する各種情報

- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけとは
- 顕著な大雨に関する気象情報とは
- 線状降水帯とは

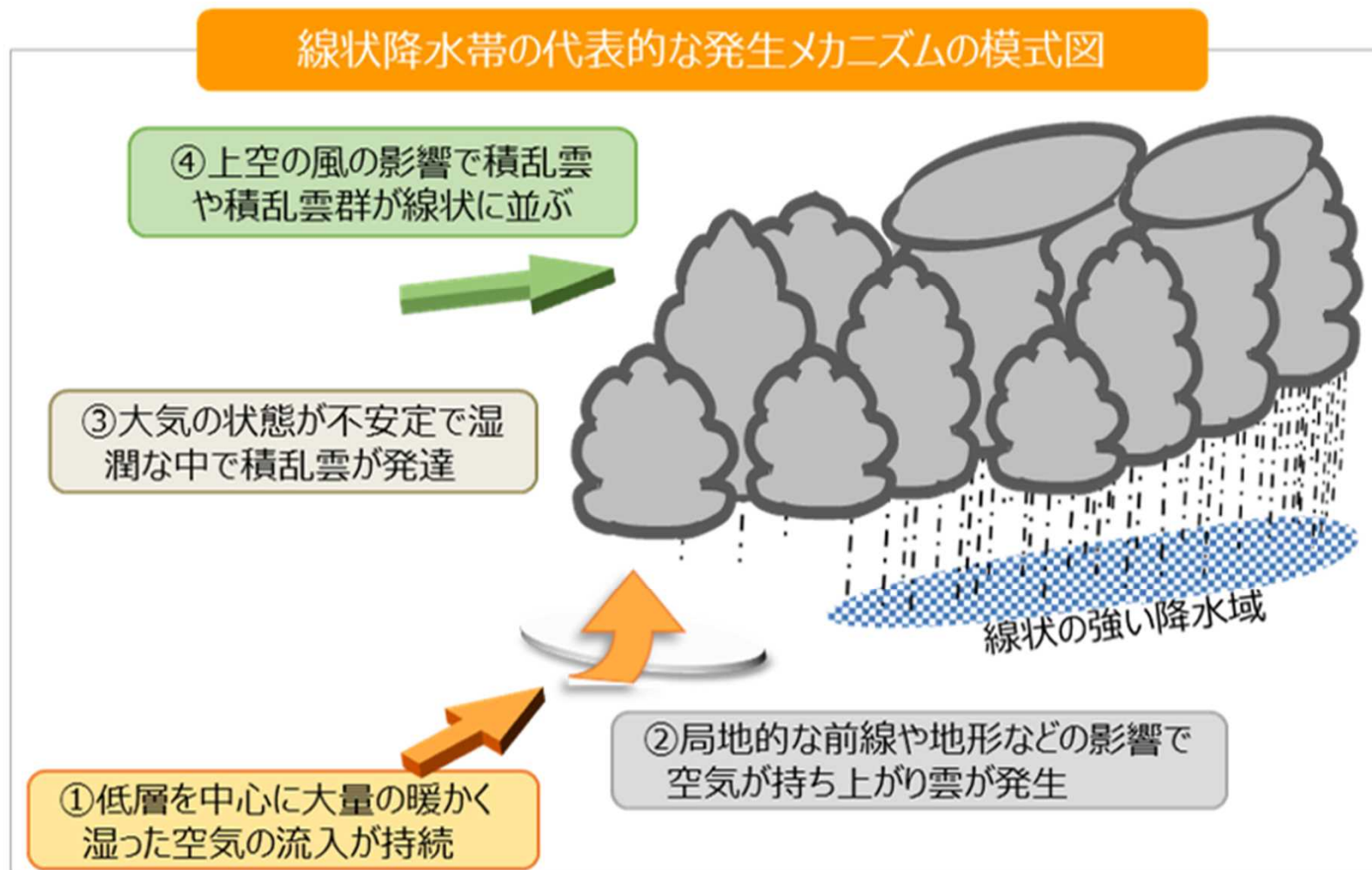
線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけとは

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性があるが予想された場合に、半日程度前から、気象情報において、「線状降水帯」というキーワードを使います。

気象庁HPより

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域（気象庁定義）



顕著な大雨に関する気象情報

令和3年6月から、**線状降水帯が発生した**ことをいち早くお知らせする、「顕著な大雨に関する気象情報」を提供しています。

令和5年5月25日から、予測技術を活用し、最大で30分程度前倒しして発表できるようになりました。

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

顕著な大雨に関する気象情報の例

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、**線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。**
命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在から30分先までに、以下の基準を満たす場合に発表。

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100ミリ以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150ミリ以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に発表

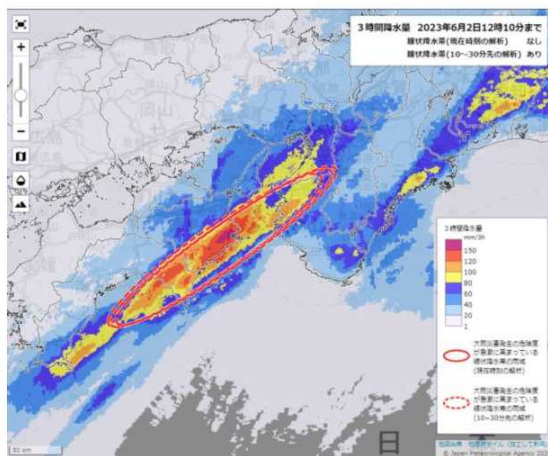
令和5年6月2日の顕著な大雨に関する気象情報

顕著な大雨に関する気象情報

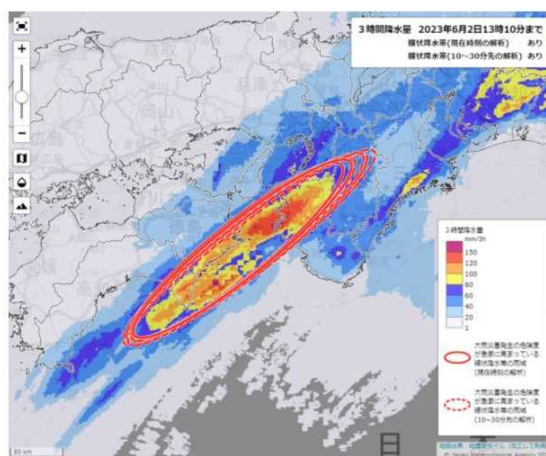
6月2日08時10分	顕著な大雨に関する高知県気象情報	第1号
6月2日11時22分	顕著な大雨に関する高知県気象情報	第2号
6月2日12時01分	顕著な大雨に関する和歌山県気象情報	第1号
6月2日13時10分	顕著な大雨に関する奈良県気象情報	第1号

顕著な大雨に関する気象情報を補足する「線状降水帯」の表示
6月2日の「今後の雨」（3時間降水量）

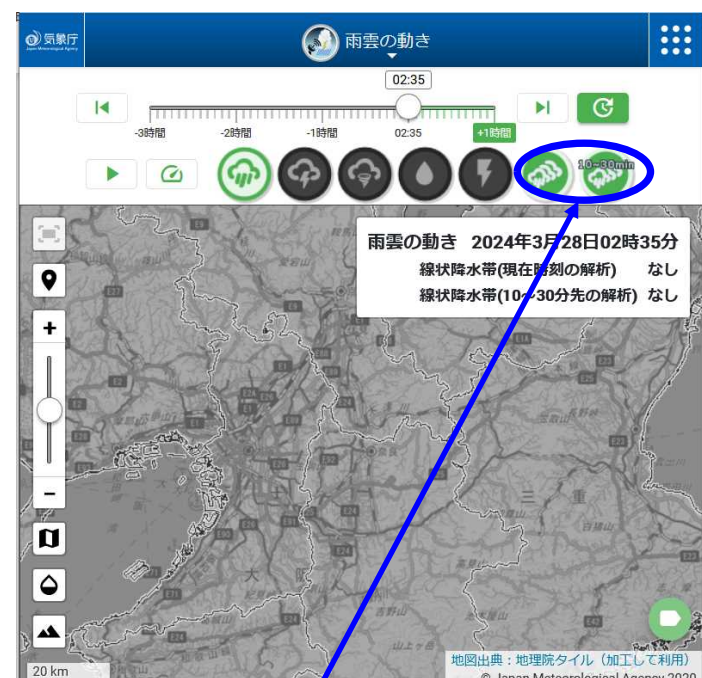
12時10分



13時10分



気象庁HPの「雨雲の動き」



線状降水帯を表示

線状降水帯による災害事例

線状降水帯が発生した災害（抜粋）	死者数
平成26年8月豪雨（広島）	70名以上
平成29年7月九州北部豪雨	30名以上
平成30年7月豪雨	260名以上
令和2年7月豪雨	80名以上

過去の大きな大雨災害においては、線状降水帯が発生していた事例は多い

線状降水帯は予測できるのか → とても難しい

ただ、予測を述べている防災気象情報は令和4年より運用しています

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

線状降水帯による大雨の可能性が程度高い場合には、「気象情報」において、半日程度前から呼びかけます。

※警戒レベルを補足する解説情報で本情報のみで何か行動を起こすものではない

大雨に関する〇〇地方気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 〇〇気象台発表

<見出し>

〇〇県、〇〇県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

… (中略) …

[量的予想]

<雨の予想>

〇日〇時から〇日〇時までには予想される24時間降雨量は、いずれも多い所で、
〇〇県 〇ミリ
〇〇県 〇ミリ

の見込みです。

線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。

… (中略) …

[補足事項]

今後発表する防災気象情報に留意してください。

次の「大雨に関する〇〇地方気象情報」は、〇日〇時頃に発表する予定です。

大雨が予想される際に発表される気象情報に、線状降水帯発生の可能性に言及するフレーズを挿入

- ※ 気象情報は、「大雨に関する気象情報」のほか、「台風第〇号に関する情報」というタイトルで発表されることもあります。
- ※ 定時の発表以外では、短文情報の形で発表することもあります。

予想雨量と併せ、線状降水帯が発生した場合にはさらに状況が悪くなる可能性があることを伝える

防災気象情報に留意し、適宜キキクルで危険度の確認を推奨

【参考】線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（観測・予測の強化）

観測や予測の強化の成果を順次反映し、令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを、令和5年5月より、「顕著な大雨に関する気象情報」（線状降水帯の発生をお知らせする情報）をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始。

令和6年5月下旬からは、令和4年度から開始した半日程度前からの呼びかけを府県単位で実施。

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

「明るいうちから早めの避難」… 段階的に対象地域を狭めていく

令和3(2021)年
線状降水帯の発生をお知らせする情報
(令和3年6月提供開始)



線状降水帯の雨域を楕円で表示

令和4(2022)年～
広域で半日前から予測
(令和4年6月提供開始)

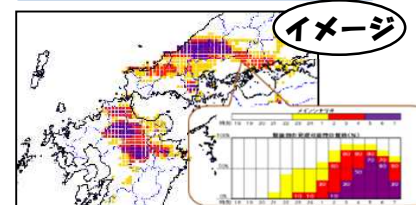
今年の新たな運用

令和6(2024)年～
府県単位で半日前から予測

次期静止気象衛星
令和11年度運用開始予定



令和11(2029)年～
市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



イメージ

令和5(2023)年～
最大30分程度前倒して発表
(令和5年5月提供開始)

令和8(2026)年～
2～3時間前を目標に発表

線状降水帯の雨域を表示

「迫りくる危険から直ちに避難」… 段階的に情報の発表を早めていく

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

近畿地方・大阪府気象情報における量的予想の表現の変更

令和元年から実施していた内容

24時間以上先（72時間先まで）の 降水量 降雪量
明後日の 風速 波高

誤差を考慮して
幅を持たせた表現

- 幅を持たせた量的予想は、予報の不確実性を伝えることができる一方で、わかりにくさがあった。
- 運用から5年が経過し検証したところ、24時間先までの予想と、24時間以上先の予想の精度が同等だった。

令和6年出水期から

降水量や降雪量、風速、波高の幅のない表現に変更

令和5年8月13日に発表した大阪府気象情報を例に

令和5年 台風第7号に関する大阪府気象情報 第2号
令和5年8月13日05時35分 大阪管区气象台発表

(見出し) <省略>

(本文) <省略>

[風の予想]

大阪府では、15日は、暴風となるおそれがあります。

14日に予想される最大風速（最大瞬間風速）

陸上 15メートル（30メートル）

海上 20メートル（30メートル）

15日に予想される最大風速（最大瞬間風速）

陸上 20から24メートル（30から40メートル）

海上 25から29メートル（35から45メートル）

明後日

15日に予想される最大風速
（最大瞬間風速）

陸上 23メートル
（35メートル）

海上 28メートル
（40メートル）

[波の予想]

大阪府では、14日から15日にかけて、波が高くなる見込みです。

14日に予想される波の高さ

大阪府 2.5メートル

15日に予想される波の高さ

大阪府 2.5から3メートル

明後日

15日に予想される波の高さ

大阪府 3メートル

[雨の予想]

大阪府では、15日から16日頃にかけて警報級の大雨となるおそれがあります。

14日6時から15日6時までに予想される24時間降水量は、多い所で、

大阪府 50から100ミリ

15日6時から16日6時までに予想される24時間降水量は、多い所で、

大阪府 100から200ミリ

24時間
以上先

14日6時から15日6時までに予想
される24時間降水量は、多い所で、

大阪府 80ミリ

15日6時から16日6時までに予想
される24時間降水量は、多い所で、

大阪府 200ミリ

<省略>

(注) 24時間降水量の「多い所」が複数日にわたって地域内の同一場所とは限らないため、単純に足し合わせると過大になります。そのような使い方はしないでください。